


国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	特別天然記念物	オオサンショウウオ	おおさんしょううお		地域を定めず	昭26.6.9 (天然記念物指定) 昭27.3.29(特別天然記念物指定)			オオサンショウウオ、別名「ハンザキ」は、現在地球上に生存する有尾両生類中最大のもので、生きた化石として世界的に有名である。中部地方から九州に至る山間の溪流に生息しているが、中国地方は特に著名な生息地で、本県では太田川水系・江の川(ごうのかわ)水系・高梁川(たかはしかわ)水系の山間の清流に生息している。オオサンショウウオのうち大きいものは、体長1.5mに達する。性質はいたっておとなしく、水中の岩下やほら穴の中にひそみ、カエルやサワガニなどを捕食する。夏、小流の深所にじゅう状の卵塊を産み、幼生は4～5年後に成体となる。		関連施設: 広島市安佐動物公園(082-838-1111)
国	特別天然記念物	コウノトリ	こうのとり		地域を定めず	昭28.3.31 (天然記念物指定) 昭31.7.19(特別天然記念物指定)					
国	天然記念物	烏骨鶏	うこっけい		地域を定めず	昭17.7.21			烏骨鶏は、全身の羽毛の小羽枝がなればなれになって羽面を示さず、羽枝が柔らかく長く絹糸のようである。それで絹羽鶏という名もある。頭部に桑葉状の冠をいただき、毛冠がその後方に直立している。性質は温順で就巢性が強い。羽毛については黒色種のほか白色種と褐色種の二種がある。烏骨鶏の原産地はアジアであるがそれ以外インドシナ半島が中国大陸かについては定説がない。 烏骨鶏が日本に渡来したのは江戸時代の寛永年間(1624～1644)と言われる。烏骨鶏は本県にはかなり飼育されていてオコケイオゴケイオカラウコウなどと呼ばれている。		
国	天然記念物	ヤマネ	やまね		地域を定めず	昭50.6.26			ヤマネは一見リスに似ており、頭胴長約8cm、尾は約5cmで四肢は短い。体の背面は淡いバラ色またはコルク色で、毛の基部は灰黒色である。眼のまわりは黒茶色で、尾は体と同色であるが金色の光沢がある。分布は本州・四国・九州の山岳地帯に広く分布しているが、その分布域は年々狭められている。ヤマネは、一属一種の日本特産動物であり、学術上貴重な種である。		